



2歳児クラス | とうきょうすくわくプログラム 実施レポート (全3回)

身近な自然と向き合いながら、「なぜ？」が芽生える時間。

しおどめ保育園江戸川中央では、乳幼児期の「感じる・試す・関わる」体験を大切にしながら、日々の保育の延長として「とうきょうすくわくプログラム」に取り組んでいます。本レポートでは、2歳児クラスで全3回にわたり実施した活動の様子をご紹介します。

活動のテーマ

自然(2歳児)

テーマの設定理由

戸外活動では近所の緑道や公園を多く利用しており、出会う自然物への興味関心は高い。対象物を囲み、「これは何かな」「ちょっと触ってみる?」「僕は怖いな」など、表情や仕草、視線、片言の言葉や喃語を通して伝え合う姿が見られている。

園庭がない環境を生かし、ねらいに合わせた公園選びを行うことで多様な自然体験に繋げている。またプランター栽培を通して植物の成長に関心を持てるようになってきたことから、保育室奥の空間を活用し、じっくり観察や図鑑に向き合える「サイエンスルーム」を設定した。

活動スケジュール(全3回)

第1回 11月

野菜の水やり・観察を保育者と一緒にやってみる。野菜の収穫をする。虫の図鑑を見て、様々な虫がいることを知る。

第2回 12月

収穫で出会った幼虫を新しい虫かごに移す。ルーペを使い、木の実を観察する

第3回 1・2月

図鑑に掲載されている生き物が実際にどのように動くのかを、映像で確認する。

第1回

土の中で見つけた、小さな命との出会い

さつまいもの収穫をきっかけに、土の中から現れた幼虫との出会いが始まりました。見る・触れる・確かめる体験を通して、身近な自然への関心が少しずつ広がっていきました。

活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・防犯カメラ ・モニター
- ・透明バケツ ・図鑑 ・ルーペ

探究活動の実践

以前、さつまいもと同様に保育園横で栽培していたプランターから、トマトの苗が引き抜かれてしまう出来事があった。収穫した野菜は実際に子どもたちの口に入るものであること、野菜の成長を動画という形で視覚的に確認出来るように見守り用のカメラを設置する。



初夏に植えたさつまいもが大きく成長し、子どもたちと一緒に収穫を行う。その際、土の中に幼虫がいることを数名が発見する。ペットボトルで簡易的に作った虫かごに土と幼虫を入れ、観察を行う。新しい図鑑を購入し、新しい生き物について関心を深めたり生き物が成長していく過程を知る。

活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり

・「(最初は) 葉っぱなのに、なんでトマトが出来るのかな?」と、苗植えから収穫までの過程が結びつかず不思議そうにしている子どもがいた。

・茎の色や葉っぱの模様に興味を示し「線路みたいだね」「くるくるしてる」「ちっちゃくてよく見えないね」と子ども同士で話している姿が見られた。



・「大きくなったらちょうちよになるかな?」「毛虫かもね」「ご飯はなにを食べるのかな」等、図鑑を眺めながら生き物の生態に興味を持つような子どもたちからのつぶやきが増える。

・爬虫類に関する図鑑を眺めていると、以前野菜の苗植えで遭遇したヤモリを覚えている子どもが多く「大きくなってかな?」「ママの所に帰ったかな?」と想像を膨らませていた。

振り返りによって得た先生の気づき

・苗植えから収穫までの成長過程がいまいち結びつかず、実が出来ることを不思議そうにしている子どもがいた。成長過程を動画などの視覚的に分かりやすいものを提供することで、より植物の成長が理解できるのではと感じた。

・生き物に出会い、観察することを通して親しみや好奇心を高めていった。何を食べるのか、どんな場所に住んでいるのかを考えてみる機会をもつことで、小さな生き物でも命あるものとして、

価値付けることにつながった。



・実際に見て触れたりすることで茎や葉っぱには模様があることを知ることが出来た。より細部を観察できる道具を用意し、子どもたちの新たな気づきを促したい。